

シンククライアントは、今・・・

酒井 寿紀 (Sakai Toshinori) 酒井 IT ビジネス研究所

ここ数年で何が変わった？

2005～2008年頃、「シンククライアント」という言葉がIT関係の雑誌等で盛んに取り上げられた。これは、職場のパソコンからハードディスクを取り去り、プログラムの実行やデータの保管をサーバーで行うことによって、データの消失や漏洩を防止するものである。もちろん、このシンククライアント・システムにはメリットもあるが、いろいろ問題点もあることを、2007年11月号の本コラム「シンククライアントは最善策か？」で指摘した⁽¹⁾。

2010年5月のリクルートの調査によると、シンククライアント導入済みの企業は15%、導入検討中の企業は5%、具体的導入計画のない企業は80%という。一時盛んに騒がれたわりには普及が進んでいない。通常のパソコンをクライアントに使っているのが、現在でも主流だ。

しかし、シンククライアントを取り巻く環境は、ここ数年で大きく変化した。どう変わったのだろうか？

(1) クラウドの流行

第1に、クラウドが流行し、従来ユーザーのサーバーで行なわれていた処理の多くが、クラウド事業者のサーバーで行われるようになったことだ。クラウド事業者の大型データセンターにサーバーを集約してコストを下げ、まとめて対策してセキュリティを向上させようとするものである。クラウドには、クラウド事業者がサーバーの仮想的なハードウェアだけを用意するIaaS (Infrastructure as a Service)、アプリケーション・プログラム(AP)まで用意するSaaS (Software as a

Service)などがある。

シンククライアントを使うシステムでは、従来クライアントのパソコンで行われていた処理が、サーバーで行われる。クラウドが普及した結果、これをクラウド事業者のサーバーで行うサービスが出現した。このサービスはDaaS (Desktop as a Service)と呼ばれている。「デスクトップ」はいろいろな意味で使われているが、ここでは「クライアント」、「パソコン」とほぼ同じ意味だ。

DaaSを利用すれば、社内にシンククライアント用サーバーを構築しなくてもよくなり、シンククライアント導入の垣根が低くなった。

特に日本では、2011年の東日本大震災で、多くのパソコン内のファイルが消失し、事業継続上、ファイルを別地の堅牢なデータセンターに置いておくことの必要性が再認識された。そのため、DaaSが注目されている。

(2) 仮想化技術の進歩

従来、シンククライアント・システムのサーバーには種々の方式があったが、現在は個々のユーザーに対応した「仮想クライアント」をサーバー内に設け、その中に、ユーザーごとにオペレーティング・システム(OS)やAPを入れておく方式が一般的である。

この方式では、従来使われていた、1つのOSやAPを多数のユーザーが共有する方式と違い、ユーザーごとに異なるバージョンや異なる設定のOSやAPを使うことができる。ということは、ユーザーが従来手元のパソコンで使っていたOS

や AP をそのまま仮想クライアントに移せばいいので、シンククライアント・システムへの移行が容易になる。

この仮想クライアントを実現するソフトには何種類かあるが、現在はシトリックス・システムズの XenDesktop という製品が、IBM、ヒューレット・パカード、富士通、日立、日本ユニシス、NTT データ、ソフトバンクなど、多くのシステムインテグレーターやクラウド事業者によって使われている。

このように 1 つの分野で寡占状態の製品は、売り上げが大きいので改良にカネをつぎ込むことができ、ますます市場を広げることができて好循環を招く。マイクロソフトの Windows や Office もそうだが、こういう製品が存在することは IT のその分野が伸張するためには非常に重要である。

(3) スマートフォン、タブレット出現

近年スマートフォンやタブレットが現れ、出張先などでクライアント端末として使われるようになった。シンククライアント・システムでも、これらの端末も使われる。また、近年在宅勤務が増えつつあり、自宅の通常のパソコンをシンククライアント・システムに接続する要求も高まっている。

これらのケースでは、これらの端末を

シンククライアント端末と同じように、データの入力と表示だけに使う仕掛けが要求される。

こういう端末が混在したシステムでは、端末がシンククライアント端末であることは本質的ではなく、クライアントの処理がサーバーで行われることがより本質的だ。そのため、今後は「シンククライアント・システム」ではなく、「仮想クライアント・システム」などと呼ぶ方がより適切である。

今後の位置付けは？

前記のように、近年シンククライアントを取り巻く環境は大きく変わった。しかし、前記のコラムでも指摘したように、シンククライアント・システムに種々の問題があることは基本的には変わっていない。また、最近多発しているデータセンターでのデータ消失、データ漏洩のリスクも問題だ。

したがって、シンククライアント・システムは、あくまでも選択肢の 1 つとして検討すべきものである。

- (1) 「シンククライアントは最善策か?」、OHM、2007 年 11 月号、オーム社
(<http://www.toskyworld.com/archive/2007/ar0711ohm.htm>)